

No 50	阿武町立阿武中学校
調査研究名	学力向上への取り組み～やまぐち学習支援プログラム活用研究～
調査研究計画	<p>1 本校生徒の実態に合わせた学習支援プログラムの活用領域</p> <p>(1)指導の強化点</p> <p>① 国語 知識として身に付けている言語を表現に生かしたり、論説・小説・詩歌等多様な文章の中で解釈する学習を強化する。</p> <p>② 数学 事象の数学的な解釈や問題解決方法の数学的な説明、及び図形領域学習を強化する。</p> <p>③ 社会・外国語・理科については、プログラムにアップされ次第活用を始める。</p> <p>(2)重点課題への取組 《本校の重点課題～一人ひとりに応じたきめ細かな学習支援をどのように行っていくか》</p> <p>① 一斉授業…生徒1人ひとりが授業に主体的な参加をするために ・到達度別課題を与える。 ・作業学習(共同作業のできる)を取り入れる。 ・小グループ別学習を活用する。</p> <p>② 個別指導…効果的かつ継続可能な指導方法の検討 ・全教師で指導を分担する。 ・家庭との連携のシステム化を図る。 ・小中連携(学習習慣を身に付けさせたり、9年間を見通した継続・発展課題の検討を推進する。)</p> <p>2 学習支援プログラムの活用計画</p> <p>(1)一斉授業</p> <p>① 教科時間内に到達度別の課題としての取組 単元ごとに内容の補完や復習の時間を取る際に、個々の生徒の到達度に応じた課題へ取り組ませる。</p> <p>② 学級活動のコミュニケーションづくり 数学・国語の問題の中に多様性を要求される問題が多くある。これをグループワークや構成的グループエンカウンターエクササイズとして活用する。教科担当だけでなく、教科担当もかかわることができる。</p> <p>③ 定期テストの問題作成のヒントとする。</p> <p>(2)個別指導</p> <p>① 家庭学習用の課題提供 課題の質を維持した家庭学習のペースメーカーとして家庭と連携しながら活用する。</p> <p>② 特別支援学級在籍生徒、別室登校生徒、学力下位生徒への個別指導 ア 小学校3～4年生用の課題を特別支援学級の教材として使用する。 イ 学力下位生徒への継続的に取り組ませる課題として使用する。 ウ 別室登校生徒の系統的指導目的の学習教材として使用する。</p> <p>③ 小中連携の取り組み課題としての活用</p>
授業研究・研修等の公開など研究成果の還元方法	
<p>・オープンスクール(年2回)期間の授業公開(保護者、学校評議員、近隣小・中・高等学校、地域)</p> <p>・校内授業研修会(年10回程度実施)</p>	